在外会員からの便り

松本さんの便り*

第1信 (Sept- 21, 1956)

Prof. Starr は気取らぬ親しみやすい学者です．私はKuoのいる部屋へ一先ず席を与えられました．毎日昼になるとStarrが一同（皆外国人）を引きつれて，約歩いて15分ぐらいのところにあるカフテリヤに食事をしに行きます．Kuoはカトリックの口数少い謹厳な（？）学者で，今，non-linear 4層モデルで random なじょう乱を与えたらどうなるかを近くの General Electric にある 704（メモリー8000）を使って計算する計画を進めています．

Charney と Phillips はまだ荷物が着かずガランとした部屋に二人で入っておりますがいないことが多いようです．Charney は講義をしない Professor, Phillips は Research Associate ということになっております．Phillips は人なつきのよさそうな人で "Vortex" のことはよく知っておりました．この二人は何故日本で計算機を作らぬかといっておりました．Kuoも同じことをいって居りましたが，この国でも 704となると何処にでもある代物ではなさそうです．

M.I.T. には気象も含めて約10名の日本人が仕事をしているそうで，学生も含めるともっと沢山いるのでしょう．私はきてみて，短い期間でもよいから，沢山の人が来た方がよいのではないかと考えました．又その機会も随分多いのではないでしょうか．

第2信 (Oct. 11, 1956)

昨日ようやく Charney に日本の台風の N.P. それに関連した研究のことを話すことが出来ました．非常に熱心に聞いてくれましたが，熱とまさつを考慮に入れぬ台風論は無意味であり，台風に関してはもっと dynamics の追求をすべきだとしきりに強調して，ワシントンの連中は technic ばかりしかやらないと非難していました．彼自身は stationary な場合の台風論を一応完成して眼の説明もできたといっており，ここ 2，3週間の間に Papar をかきあげる，それがすんだら non-stationary の問題をやりたいといっていました，その他，4層〔900, 700, 400, 200, (100？)〕を使い balance equ. をくみ入れ Washington の 701 を用い計算しました．24時間予報に 12 時間かかり，magnetic drum 8000, tape 16,000 の memory を使ってもその時間は短縮できないそうです．また，明後年には夫婦で日本に行きたいといっていました．

追伸 Washington の Hurricane N.P. では 3-layer でもあまりよい結果はえられなかったそうで，一般に進み方が足りないそうです．Charney は上昇気流による熱の発生を考えない限り，解決できないのではないかといっていました．

第3信 (Oct., 23, 1956)

私は今 Starr の講義と Lin の Hydrodynamics を聞いていますが，何れも新鮮な感銘をうけています Starr の方は何も新しいことはないのですが彼自身実に楽しんで講義をしていますし，細かな点の discussion よりも physical meaning を特に強調している点が参考になりますし，Lin の講義も簡単な eq. を使って豊な physical meaning をきわめて，clear に説明しています．

先日は Woods Hole で M.I.T. と共同の thermally driven circulation に関する symposium が開かれ，Lorenz が話をしました．こちらの研究は何れも大きな計算をぐんぐんやっている点で非常に特長があるようで，M.I.T. では，Saltzman という若い人が北半球 map を使い wave component 間の energy のやりとりをこまかに調べていますし，Gilman という若い人は長期予報に50何元かの correlation matrix から固有函数を求め，その何番目かの函数と Boston の気温の auto correlation との間に 0.5 の相関がみつかった等と誠に威勢のよい限りです．

Wexler と dinner で隣合せにすわりましたので，少し質問をしてみました．Weather Bureau で I.B.M. を借りることにしたのは，レミントンに比べ経験が多いからという理由によるだけで他には理由がない．機械は日を追って新しくなるので lental の方が都合がよいと思うといっていました．

Phillips は実に温かい感じの人で，僕が英語が出来ないのを何時もかばって呉れます．彼は小さい頃新聞配達などやったことがあるそうで，戦争中Azoresで気象観測に従事し，戦後にAhicago 大学に入ったのだそうです．

第4信 (Nov. 6, 1956)

出発してからそろそろ2カ月になりましたが，段々なれてくると生活水準が高いという以外は生活感情は少しも変らないような気が致します，私が接しうる限りでは，部長から郵便配達夫に至るまで，同じような事をもち，同じようなものを食べていて，米国内に関する限りでは既に社会主義的な生活になっているようだと思います．もっとも南部の農村地帯ではどのようになっているかは知りませんが，当地では黒人のほうがむしろ良い車を乗り廻しているかのように見えます．また，教授と学生の間も全く対等の人格として話しが交され，上下の区別が全くないことは，デモクラシーの良い所でしょう．むしろ，あまりにも機械化され劃一化されてしまって，そろそろ動きがとれなくなってきたという印象をうけます．

* 本文は松本誠一氏がアメリカからよせられた4つの便りを窪田が整理したものである（12月17日）

G.R.D. から昨年出した results of numerical forecasting with the barotropic and thermotropic atmospheric models というのをみせてもらいましたが，60 例程を比較して何れも 500mb の24時間予報に 0.82（平均）の correlation を示しているのは，ちょっと注意を引きます．なお thermotropic による 1000mb の24時間予報は平均0.69となっています．

Phillips は Q.J.R.M.S. に出した Paper の続きをやっており，Princeton に計算機を使いに出かけます．前の計算で23日目頃から急に計算不安定を起したことについて何か考えているようで，Fourier を使ってやることに改めたようで，小さい波との干渉について知識を求めておりました．

小倉さんが今 Chicago にいてあちらも大変賑かなことと思います．12月には当地に寄られるそうで，楽しみにしていられます．

渡辺和夫理事からの便り*

在京理事の皆さま

皆様方にはすっかり色々とごめいわくをおかけしてしまうことになりましたが，1957年もどうぞよろしくおねがいいたします．

このテキサスの片田舎にも A. M. S. College Station Branch ができておりまして毎月1回，第1金曜の夜7時30分から例会を開いております．勤務時間中に seminar などをやるのだから，昼間例会を開いてもよいはずですが，学会の例会はこちらでは肩のこらない一種の社交機関になっているので，日中忙しい人も出席できるように，またゆっくり一夕をすごせるように（土曜は office が休みになりますから）してあるのでしょう．例会には40人近くの会員がほとんど集ってきます．Freemam も Heuston からかけつけてきます．

講演はスライドを使ったりして，よそにあった学会の報告などが多く，あまり肩のこるものはさけているようです．12月7日には "field meteorologist と research meteorologist" "職業としての meteorotogist" などにつき Panel discussion があり，やはり日本でもよくひきあいに出されるように，医者との比較が講論の中心になりました．講演が終ると business talk に移り，過去1月間の主な会務報告ののちいろいろな提案の論議に移ります．当日はちょうど数日前の Houston Post という新聞に「Dallas の meteorologist Irving P. Krick が電子計算機を使用して毎日の天気予報を数年先まで近く実施することになるはず」という記事が出ていたので，一会員から「僕は25年ほど前にもこれと同じような記事を新聞で見た記憶があり，学会としてもこのようなことに知らぬふりをしているのはよくないから一応 national councel に調査を要求したらどうか」という動議が出ました．

さて会が終ると別室に移ります．そこではテーブルの上に湯沸し器とコップ・クリーム・ドーナツなどが列べられてあり，自分で各自コーヒーをコップについでクリームと砂糖をいれ，ドーナツをとって別の箱に10セントいれてゆき飲み食べしゃべると，また各人が備えつけの水でコップをゆすぎ紙で拭いて置いてくる．これで例会の第1部は終り，解散するとこんどは各人の車を走らせて，この町と隣り町の間にあるドライブ・インに集ります．（college station は dry で酒を売れないことになっているので隣町までゆくわけです）アメリカでは薄給の代表者みたいな学校関係の人が大半なので，各人相応にビールを一本か二本づつ飲みます．プラスチックのコップがたりない時には紙のコップで，もちろん独酌でついでは飲み飲んではしゃべり，帰りたくなったものはテーブルの上に1本なら25セント2本なら50セント，チャリンと投げ出してさっさと帰っていってしまいます．来る3月にレーダー気象の会議には講演を申しこんでおいたのでおそらくボストンへ行く機会があると思いますし，9月頃にはこの college station で A. M. S の national meeting があるはずだとも聞いておりますので，もっと学会について色々と経験する機会もこんごあることと思います．そのおりはまたご報告します．

なお college station の A. M. S. Branch は会費年1ドルで，Meteorological Society の正式な会費でなく雑誌をとっていなくても参加できるようにしてあります．

いろいろとりとめもないことを綴ってきましたが，はるかに皆様のご活躍とご健康を念じながら筆を置かせていただきます．

* 1956年11月11日発信